

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2791300078		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)		
所在地	大阪府貝塚市加神1丁目10-3		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2791300078-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2791300078-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年3月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームで生活されるようになって、常に季節を感じて頂けるように季節ごとの行事や毎日の買物や散歩などを積極的に行っています。また地域との交流もあり、近くにある海塚保育所の園児を毎年ホームにお招きしたり、貝塚高校の福祉科の生徒さんに至っては1年生の授業の一環として当ホームに来て自分たちで考えたゲームや遊びなどを披露してくれています。3年生はヘルパー2級講座の施設実習先として当ホームを選んで頂き、今年から10名ほどの生徒さんが実習に来られます。そして今後は貝塚高校の生徒さんが当ホームへ就職したり、ボランティアとして遊びに来てくれたりして、ますます地域に密着したグループホームになるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員全員で前回の評価後に独自の理念を見直し、それぞれの思いを出し合い作成された「元気いっぱい、笑顔いっぱい」という理念の基、職員は挨拶を基本とし、季節は関係なく少しでも全利用者が外に出る機会をほぼ毎日作り、散歩や買い物を通して笑顔を引き出すと共に健康な身体づくり、筋力維持に努めています。地域との関わりが難しい土地柄ではありますが、ホームからはたらき掛けにより近くの高校から実習生を受け入れたり、保育園児や相撲部屋力士の訪問があります。また、介護相談受け入れのチラシを医師や薬剤師の協力を得て配布したり、地域密着型事業所としての役割を担うため市の担当者や同業者と連携を図り、今年度より連絡会を発足させる等地域との関係作りにも積極的に取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「元気いっぱい、笑顔いっぱい」をホームの理念としニチイ学館の社是と経営理念と共に毎日朝の会議で唱和している。	法人の社是と経営理念に加え前回の外部評価後にホーム独自の理念を見直し、職員全員で思いを出し合い作られた新しい理念を毎朝唱和しています。挨拶を基本とし、ホーム内、地域に出た際にも意識し取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買物や、地域の文化祭に参加するなどしている。	町会には入会出来ていませんが、掲示板や市役所に行った際に情報を得て地域の文化際にホームの作品や利用者個人の作品を出品しています。近くの高校の実習を受け入れたり、保育園児の訪問もあり、散歩や買い物を通して顔馴染みの関係作りにも努めています。また隣の小規模多機能施設との連携も図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「いつでも介護相談など受け付けています」といった内容のチラシを配っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、ホームの取り組みの報告や今後の予定などを書面でお渡しし、参加頂いた方と積極的に意見交換を行っている。	運営推進会議は、家族代表や町会長、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に一回開催しています。ホームの活動や報告をし、現状を知ってもらう機会となっており、意見交換が出来る場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題が起こった時などは直ぐに相談している。以前から希望していたが今年からGH連絡会が発足となった。	市担当者とは何でも相談出来る関係にあり、相談があれば直接出向いています。研修の案内をもらって参加したり、今年度より地域密着型事業所の連絡会を発足させ協力関係をさらに深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての講義をホームの全体会議のときに1年に1回は必ず行っている。夜勤帯の時間以外は玄関の鍵は施錠していない。	年1回は身体拘束についての勉強会に全職員参加しています。管理者からは職員側の都合による言葉掛けも拘束につながる事を伝えています。玄関、ユニット入口は施錠せず、センサーを付けています。利用者が外に出たい場合は一緒に出掛けて気分転換をしてもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての講義をホームの全体会議のときに1年に1回は必ず行っている。ホーム内に虐待防止ポスターを掲示している。		

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの勉強会等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定などはその都度重要書類を取り交わし説明を行っている。契約や解約のときも、疑問点がないか必ずお聞きしながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの運営に関してアンケート用紙を配り、家族様の希望や苦情などをお聞きしていると共に、その意見を十分生かすことが出来る様努力している。	家族がホームに来られた際や電話で意見や要望を聞いています。法人で毎年アンケートを実施し、得られた意見に関して職員間で話し合い改善し、家族とのコミュニケーションの大切さについて再認識する機会となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者については支店で行う毎月の3ホーム長会議があり、本社主催の管理者研修も行われている。常勤、非常勤スタッフに関しては、管理者が定期的に面談を行っている。	毎月の会議では職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めています。管理者による個人面談を年に1回実施し、日ごろ何かあった場合は声掛けをするようにしています。役割分担の見直し等職員から出された意見については話し合い検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップ制度や資格手当などを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や、リーダー研修など必要に応じて受けている。法人内の研修等については社員割引制度などがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成25年度より貝塚市GH連絡会が発足となり、今後同業者との意見交換する場が増えると思われる。		

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居にあたってご本人様から出来るだけ沢山の情報を得よう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居にあたって担当CMやご家族様から出来るだけ沢山の情報を得よう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居に当って車椅子やベッドが初めから必要と判断した場合は事前に用意し、必要ならば主治医に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中でスタッフとは対等の立場で過ごして頂けるような声掛けを常に全スタッフが意識して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様がホームに来られたときは近況などご本人の様子をお話しており、家族様の要望などもお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人を忘れないように部屋に写真を飾ったり、年賀状を書くお手伝いをしたりしている。	馴染みのスーパーや病院に行ったり、家族や親戚が来られた際は寛げるように配慮し、また電話の取り次ぎや年賀状を書いて一緒にポストに出す等、出来る事を支援しています。利用者の要望は家族に伝え一時帰宅や墓参り、法事への参加や食事等を家族と楽しんでもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格なども十分考慮し、お互いやな思いや寂しい思いをすることなく過ごせるように、リビングでの席替えを行ったり、スタッフが間にはいたりしている。		

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはお見舞いに行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にサービス担当者会議等で話あっている。	入居時に家族や担当のケアマネジャーから思いに繋がる情報を得ています。入居後は、日々の会話の中で希望や好みを聞いて介護記録に残し職員間で共有しています。意思の疎通が困難な場合は選択方式で聞いたり表情等から汲み取り、本人本位に職員間で話し合い思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様、担当CMからの情報を出来るだけ全スタッフが共有できるよう勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理日誌や個人記録などにしっかり記録することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やモニタリング等でスタッフの意見を聞き計画作成者がまとめ、介護計画書を作成している。新しい計画書は必ずご家族様に確認して頂いている。	本人や家族の基センター方式を一部活用してアセスメントを行い、職員の意見を聞き取り、サービス担当者会議を開催し、介護計画を作成しています。場合によっては医師や看護師の意見も聞きながら一人ひとりに合ったプランが作成され、モニタリングを実施して3ヶ月に1回見直しています。状態に変化があった場合はその都度見直しされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニットごとの管理日誌と個人記録の2種類のファイルがあり、出来るだけ細かく記録に残すよう努めていると共に振り返りや反省に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診医以外の病院の通院や、介護サービス以外の自費でのサービスも支援している。		

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーにほぼ毎日買物に行っている。図書館や市役所の施設なども時々利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度往診にきてもらっている。急な体調不良時はなるべく職員が付き添って受診もしている。何か体調の事で不安があれば電話等で指示を仰いでいる。	入居時に希望のかかりつけ医を聞いており、これまでの主治医を継続している利用者もいます。ホームのかかりつけ医による2週間に1回の往診、週1回の看護師による訪問があり、24時間医師との連絡が可能な体制となっています。また2週間に1回の歯科医の訪問もあります。その他専門医への受診は基本的には家族対応ですが、職員が支援する場合があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が往診に来て、日常の健康管理を行い、必要に応じて主治医に連絡、報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームの往診医である良田医院の良田先生や河崎病院などが相談等に応じてもらえる。退院時は病院関係者やご家族様とカンファレンスに参加し、退院後の生活について情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における指針として書類を作成しており説明、同意を頂いている。	入居時に重度化した場合の指針を説明しています。これまでに看取りの支援を経験しており、出来るだけ早い段階で本人、家族の希望を聞いて、利用者の状況に合わせて医師の意見を聞きながら職員間で話し合い、勉強会を重ねながら支援をしています。チーム一丸となったケアにより家族から喜ばれると共に職員の良い経験にもつながっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時についての対応はマニュアルに則り定期的に勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っており、避難場所や避難経路などもその度確認している。	年2回の消防訓練のうち1回は消防署に来てもらい、1回は自主的に昼夜を想定して訓練しています。隣にある別法人の小規模多機能事業所とは互いの避難場所になっており協力体制が出来ています。今後も引き続き運営推進会議での話し合いや近隣の方等に挨拶を通して協力を求める予定です。	

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには充分注意し、子供扱いしているような言葉掛けにならないよう努めている。	接遇やプライバシーについては、新人や採用時研修の他、ホームでも年に1回事例やマニュアルを用いながら勉強会を実施しています。食事の介助の際や排泄の支援の際の言葉掛けには特に配慮しています。不適切な発言が見られた場合はその都度管理者から注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か食べたいものは無いか、洋服はどれを着るかなど、なるべく選択肢を2~3個に絞って、ご本人に意見を聞いて選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、その人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容のお手伝いや外出時の服装選びなど一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ声掛けを行い、台所に来て頂き、お手伝いして頂いている。	献立は基本的に職員が決めていますが、毎日一緒に買い物へ行った際に利用者の希望を聞いてメニューを変更する場合があります。魚は毎朝和歌山から届けてもらっています。利用者には包丁を使って下ごしらえや、盛り付け、食器洗い等出来る事に携わってもらっています。寿司の出前を取ったり、外食に行くなど楽しんでもらう機会を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個人記録に残し把握しており、水分摂取量が少なければ、声をかけ摂取して頂いたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯のケアも含め口腔ケアは行っている。		

ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄介助は行っており、オムツやパット使用を減らす努力はしている。	トイレでの排泄を基本とし、介護記録への記録を通して排泄パターンの把握をしながら誘導を行っています。誘導することでパッドの使用量が減り、日中は紙パンツから布パンツになった利用者もおられ一人ひとりに合わせ自立に向けて支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほぼ毎日乳製品を積極的に食事に取り入れ、散歩など軽い運動をすることで便秘予防に努めている。便秘のきつい方には医師から便秘薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度ご本人の希望する時間に入浴出来る様努めている。	入浴は朝から夕方まで準備しており、一人ひとりの希望に合わせて入ってもらっており、毎日入られる利用者もいます。車椅子の方はシャワーチェアで対応しています。また入浴しない日には、足浴も行っています。拒否される方については入浴剤の希望を聞いたり、声掛けの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後だったり、買物から帰ってきたときなどはしっかり水分補給をして頂き休息を取って頂いている。睡眠不足の時は昼寝を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全てホームで管理しており、医師からの処方せんで薬の副作用などについても全スタッフが理解している。分からない時は主治医に質問している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの性格や好みを理解し、個別にレクリエーションなどをおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買物や散歩は順番にほぼ毎日行っている。春の遠足や御花見などの遠出の外出も行っている。	ほぼ毎日、全員の利用者が少しずつでも外出できるように支援しています。日々の散歩や買物の他、個別で遠足へ出掛けたり、市役所や図書館に行っています。ホームの広い庭に出て気分転換を図る事もあります。また、家族と一緒に墓参りや法事、外食にも出掛けています。	



ニチイケアセンター貝塚(はなみずき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かるおこずかい金と別に、財布を持って自分で管理されている方もいらっしゃる。一緒にスタッフも買物に行き支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話して欲しいと訴えがあれば、ホームの電話を使用してもらっている。その際電話番号を探したり、番号を押すなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや共用のリビングや各居室は毎日掃除を、整理整頓を心がけ、危険箇所が無いか確認している。空調については快適に過ごして頂けるようこまめに温度調節をしている。特に浴室と脱衣所の温度は気をつけている。	玄関やリビングにはフェルトで作られた季節を感じさせる作品が飾られ温かみのある空間となっています。広いテラスで寛いだり、庭で菜園を楽しんだり季節を感じてもらっています。ホーム内の掃除も丁寧に言い清潔が保たれています。段差のない和室もあり、時々食事をされるなど、活用しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの好みを考慮し、テレビの見やすいところやトイレが一番近いところ、窓からの日差しが一番届きぼかすところ、楽しくお話ができる方の隣など常に考えて座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本は入居時、ご家族様に馴染みのものをそろえてくださいとお願いし、ご本人が一番落ち着く様に部屋のレイアウトをお願いしている。	クローゼットは備え付けですが、これまで使用していた馴染みのものを持ってきてもらうように話をしています。大切にしている絵の作品や使い慣れた机や椅子、仏壇を持って来られることもあります。希望に合わせてベッドではなく、絨毯を敷いて布団で休まれる方もおり、一人ひとりに合った居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自室の場所が分かりやすいように矢印をしたりプレートを貼ったりしている。個別のものには色分けしたり名前を書いたり置く場所を決めたりしている。		